

科目名	体育実技Ⅱ(応用) Physical Trainig Ⅱ		担当教員 (研究室番号)	大西 範和 (501)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	norikazu.oonishi@mcn.ac.jp					
履修年次	1年次後期	科目区分	教養・基礎科目		選択区分	必修	単位数(時間)	1(30)	授業形態	実技	科目等履修生	否
											オープンクラス	否
科目目的	本授業科目では、グループ毎に他のグループを対象としたスポーツやレクリエーションのプログラムを計画・実施する。参加者が楽しみながらプログラムの目的を達成できるよう自ら工夫仲間と協力しながら、計画する力や組織として動く力や、対象者に対するホスピタリティについて学びあう。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	B 多様な考え方や様々な背景を持つ人々の特徴を理解するための、幅広い教養を身につけている。(知識・理解)										
	関連するDP	A 人々の生命と人間としての尊厳及び権利を尊重し、共感的に関わる姿勢を身につけている。(姿勢・態度) D 様々な職種との連携において、看護専門職としての役割を果たすためのコミュニケーション能力を身につけている。(技能・表現)										
到達目標	1. グループで協力して、目的に応じたレクリエーションやスポーツのプログラムを計画することができる。(A、B、D) 2. レクリエーションやスポーツのプログラムをホスピタリティに配慮して実施することができる。(A、D) 3. 実施したプログラムの成果や課題についてグループで総括し発表することができる。(D)											
成績評価方法(基準)	毎時のイベント計画・実施の完成度や活動状況(60%)、発表会における総括の状況(20%)、取り組み全般への貢献度(20%)などにより評価する。出欠席状況(1回の欠席で-5%)											
再試験の有無と基準等	毎時の活動状況をもとに成績評価を行うため、再試験は実施できない。											
教科書	特になし											
参考書等	特になし											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	授業では、グループ毎に設定した目的に沿って、1グループあたり2回のプログラムを計画・実施する。自分が参加して楽しむだけでなく、他者に喜びを提供する立場を体験する。実施にあたっては、目的に応じた企画の独創性、実現性やホスピタリティ等に配慮する。プログラムを計画・実施する中で、自己の役割を果たす姿勢や責任感、仲間作りのための能力を身につけ、医療・看護で求められるチームワークを発揮できる協調性を高めたい。											
備考												
回	学習項目				学習内容				主担当教員	授業方法		
1回	オリエンテーション				授業内容、出欠席の扱いや成績評価に関する説明を行う。グループ分け(5グループ)を行い、グループ毎に行うスポーツやレクリエーションのプログラムについて目的を設定する。内容は、各種スポーツやゲームやその他オリジナルのものとし、グループ毎に定めた目的を達成できるよう、実施計画の作成を開始する。				大西	演習		
2回	目標の設定とプログラムの立案				引き続き、実施計画を立案する。計画は進行や役割分担、事前準備などについて計画書を作成し、担当教員と事前に十分に協議する(課題)。プログラム終了後には、参加者の感想や意見をフィードバックし、その成果や課題について検討して次回のプログラムに活用することとする。				大西	演習		
3回	第1グループのプログラム①				第1グループが企画したプログラムを実施する。				大西	実技		
4回	第2グループのプログラム①				第2グループが企画したプログラムを実施する。前回までのグループの実施状況や成果を踏まえて、よりよいプログラムにできるよう工夫する。				大西	実技		
5回	第3グループのプログラム①				第3グループが企画したプログラムを実施する。前回のグループの実施状況や成果を踏まえて、よりよいプログラムにできるよう工夫する。				大西	実技		
6回	第4グループのプログラム①				第4グループが企画したプログラムを実施する。前回のグループの実施状況や成果を踏まえて、よりよいプログラムにできるよう工夫する。				大西	実技		
7回	第5グループのプログラム①				第5グループが企画したプログラムを実施する。前回のグループの実施状況や成果を踏まえて、よりよいプログラムにできるよう工夫する。				大西	実技		
8回	1回目のプログラムの総括				グループ毎に1回目のプログラムをふり返り、その成果や課題を明らかにすると共に、2回目以降にそれを活かすよう話し合う。				大西	演習		
9回	第1グループのプログラム②				第1グループが企画した2回目のプログラムを実施する。総括した結果や、前回のグループの実施状況や成果を踏まえて、よりよいプログラムにできるよう工夫する。				大西	実技		
10回	第2グループのプログラム②				第2グループが企画した2回目のプログラムを実施する。総括した結果や、前回のグループの実施状況や成果を踏まえて、よりよいプログラムにできるよう工夫する。				大西	実技		
11回	第3グループのプログラム②				第3グループが企画した3回目のプログラムを実施する。過去の成果を踏まえて、よりよいプログラムにできるよう工夫する。				大西	実技		
12回	第4グループのプログラム②				第4グループが企画した3回目のプログラムを実施する。過去の成果を踏まえて、よりよいプログラムにできるよう工夫する。				大西	実技		
13回	第5グループのプログラム②				第5グループが企画した3回目のプログラムを実施する。過去の成果を踏まえて、よりよいプログラムにできるよう工夫する。				大西	実技		
14回	全プログラムの総括				2回にわたって実施したグループのプログラムについて総括し、参加者のアンケートなども含めてその成果や課題について話し合う。				大西	演習		

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
15回	成果発表会	第14回で総括した内容を、パワーポイントを用いて発表し、成果や課題を全体で共有する。	大西	演習

学 習 課 題	
1、2回目課題（事前）：グループ毎に行うスポーツやレクリエーションのイベントについて内容を自分なりに考えておく。 3～7回目課題（事前）：自分たちのグループで行うスポーツやレクリエーションの実施計画を立てる。 3～7回目課題（事後）：自分たちのグループで行ったスポーツやレクリエーションの総括をしておく。 8回目課題（事前）：自分たちのグループで行ったスポーツやレクリエーションの総括ができるよう準備しておく。 9～13回目課題（事前）：自分たちのグループ毎に行うスポーツやレクリエーションの実施計画を立てる。 9～13回目課題（事後）：自分たちのグループ毎に行ったスポーツやレクリエーションの総括をしておく。 15回目課題（事前）：自分たちのグループで行ったスポーツやレクリエーションの総括を発表できるよう準備しておく。	

実務経験を活かした教育の取組